



2008年10月17日

関係各位

千代田化工建設株式会社
IR・広報室

パプアニューギニアで LNG プラントのデザインおよび EPC 見積り業務を受注

千代田化工建設(本社:横浜市 社長:久保田 隆)は、この度、パプアニューギニアにおける LNG プラントおよび付帯設備のデザインおよび EPC(設計・調達・施工)見積り業務を受注しましたので、お知らせいたします。本プロジェクトの事業主は、エクソンモービル社を主体としたベンチャー共同体*によって構成されております。

本件につきましては、ガスの受入設備、ガス処理設備、年産 630 万トンの天然ガスの液化設備、出荷設備のデザインおよび見積り業務が範囲であり、当社は、天然ガスの液化プロセスとして APCI 方式を採用いたします。

エクソンモービル社は、本プロジェクトの商業協定を各ベンチャーパートナーおよびパプアニューギニア政府と結んでおり、本プロジェクトの初期設計を、2008 年 5 月に開始しています。本プロジェクトは、ハイズ、アングレ、ジェハの各ガス田から産出されるガスおよびサザンハイランズで操業中のクツブ、アゴゴ、ゴベ、モランの各油田の随伴ガスを全長約 700km のパイプラインでポートモレスビー近郊に輸送し、年産 630 万トンの生産能力を持つ LNG プラントを建設する計画となっております。LNG の生産開始は、2013 年後半～2014 年が予定されており、LNG の出荷先はアジア地域となります。

当社は、パプアニューギニア初の LNG プラント建設となる本プロジェクトの遂行に際しては、経済性の最大化を図っていくのみならず、カタール、サハリンでの LNG プラント建設の知見を生かし、自然環境に十分配慮してまいり所存です。また、国際レベルの労働基準、安全管理体制を整えると共に、地域社会の長期持続的発展の機会を創出しながら、パプアニューギニア社会への波及効果の最大化に努めてまいります。

当社は、LNG プラントおよび LNG 受入基地で多数の実績を重ねており、今後も、オセアニア、中東、ロシア、東南アジアなど、多数のガスヴァリューチェーンプロジェクトが期待される地域で、世界規模の各種サービスを提供していきます。

ベンチャー共同体* = エクソンモービル(41.5%)、オイルサーチ(34.0%)、サントス(17.7%)、オーストラリアガスライト(3.6%)、新日本石油(1.8%)、MRDC(1.2%)、Eda Oil(0.2%)で構成。

以上

この件に関するお問合せ先:

IR・広報室 伊藤 健/青木 健一

電話 : 045-506-7538 Fax : 045-506-7085

E-mail : kenaoki@ykh.chiyoda.co.jp